

【千葉】「創業時からの理念『お客さんへ満足と感動を』を継承するには、従業員満足度(ES)の向上が必要。やりがいのある働きやすい職場環境を構築す



ムツミ 宮地 一貴氏

ることで、顧客への姿勢や気持ちに反映してくれたらと、従業員との交流を一番に考えている」。こう語るのは、ムツミ(千葉県市原

【千葉】「当たり前のことを当たり前にやる『凡事徹底』で、お客さんの心を揺さぶっていききたい。便利な世の中になったからこそ、心に着目することが大



キーベックス 斉藤 進氏

事で、時代の流れに逆行した取り組みは付加価値になる。従業員には日頃から伝えており、会社の方向性を全員で共有している」と語

市)の宮地一貴社長(44)。レーラ輸送を中心に受託し、創業者である父・清一氏(現会長)から、4月に社長を引き継いだ。1982年12月に創立し、主に石材の日中一貫輸送サービスを展開。昨今は、増車要請に悩まされたい。厳しい経営環境に置かれつつも、「第二の柱として、一般雑貨などの取扱量を増やし成長を図りたい」

# 「従業員と交流」一番に

墓石需要の低下により、日中間輸送で提携している中国企業については、「提携先は日本をよく理解しており、日本企業へのアナウンスに力を入れたい。目標は年内。お客さんへの細かいサービスを踏襲していると思う。提携により、資料が見やすくなった。コストが下がったりするメリットは多い」と説明する。また、中国以外での航路

るのは、キーベックス(千葉県中央区)の斉藤進社長(44)。4月に現会長の父・宏氏の後任として、専務から昇格した。1984年に隅田倉庫運輸として設立し、書類保管業務は書類保管に集中していたが、電子化やペーパーレス化が進み、「過渡期」と捉える。「シェアを拡大しつつ、新たな事業に着手していく」。本社隣接のセンターを9月に着工し、2019年の竣工を期し、社員に歩み寄り、働きやすい環境づくりに本腰を入れなければならない」と

# 凡事徹底で心揺さぶる

社長就任前の1月、従業員に対して匿名のアンケートを実施。「社員と経営者のギャップの大きさを痛感した。社員に歩み寄り、働きやすい環境づくりに本腰を入れなければならない」と

## 雑貨輸送が第二の柱

たい。今後は、ビジネス機会を得るため、いろいろな交流会にも参加したい」と話す。宮地社長は、業界が抱える人手不足を不安視している。10万人超のドライバー不足になると叫ばれる中、「官民一体で解決すべき問題。弊社でもドライバー募集を行ったが、問い合わせすら無い状況だ」と嘆く。更に、「政府はトラガール推進を掲げているが、業界の地位向上、労働環境、賃金などの改善が無ければ男性ドライバーの確保すら難しいと思う」と主張。続けて、「時間を意識して生産性向上につなげたい」とする一方、荷主の協力も必要と訴える。1972年10月、福岡県生まれ、東京都育ち。大手運送会社の現場で働いた経験を持つ。普段は自宅で飼っている犬の散歩が至福の時。幼少の頃から犬がいる環境で育ち、今はトイプードル4匹を飼っている。自他ともに認める犬好きだ。(井内亨)



## RFID導入を検討

課題は「やらされ感」で、従業員が意見を出しやすい環境づくりに注力することにより、責任とやりがいを持たせる。また、残業時間削減や有給取得などにも取り組む。同時に、書類保管業務向けRFID(無線自動識別)の導入も検討。6月にはプロジェクトチームを立ち上げた。試験導入に移行。コストや実現の可